

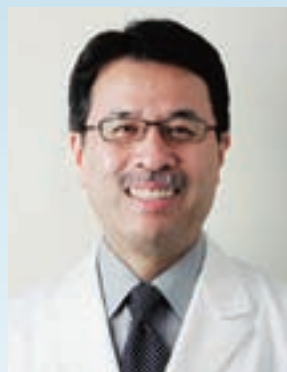


羅針盤

上出 良一

Ryoichi Kamide

東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科 教授,
Visual Dermatology 編集協力者



光線過敏症の今

平成 22 年 7 月 30, 31 日に「第 32 回日本光医学・光生物学会」が東京慈恵会医科大学西新橋校大学 1 号館で開催されました。この学会は 1978 年に外用 PUVA のパイオニア、名古屋市立大学皮膚科教授 水野信行 先生が、皮膚科のみならず広く医学、生物学、あるいは化学・物理学領域の「光」を中心とした交流、研鑽を目的に光医学・光生物研究会を開催されたことに端を発します。その後、光医学・光生物学会に改組され、今日に至っております。この度、第 32 回の会頭を仰せつかり、誠に光栄と存じるとともに、副会頭の東海大学工学部 伊藤 敦 教授の絶大なるご協力を得て、企画、運営を行い、お陰様で無事盛會裡に終えることができました。

今回は学際的なセッションに加え、光線過敏症カンファレンスとして、光皮膚科学の臨床を集中的に討議するセッションを設け、多くの症例のご応募をいただきました。通常の皮膚科の学会では十分に討議できなかったきらいのある、診断がむずかしい症例を、光のエキスパートである座長の先生方のコメントも含め、現在の光線過敏症における臨床の話題や疑問点を深く掘り下げることができました。しかし、時間の制約もあり、議論し尽くせないところが残ったのは残念でした。

学会翌日の 8 月 1 日には、同じ会場で一般向けの公開講座「光線過敏症を知ろう」を開催し、光線過敏症の中でも重症で QOL 低下の著しい色素性乾皮症とポルフィリン症のご家族の方、あるいは患者さんご自身に「色素性乾皮症を生きる」「ポルフィリン症を生きる」という演題で、普段から抱いておられるさまざまな思いを語っていただきました。また、皮膚科医からは各疾患の最近の研

究成果についてわかりやすいご講演がありました。患者数が少なく、一般の理解もまだまだの光線過敏症の啓発に、多少でも役に立ったとすれば、この公開講座を開催した目的が達せられたと思います。

今回、Visual Dermatology 誌編集委員会のご理解で、本学会での演題を主体に光線過敏症の症例呈示と議論し尽くせなかった事項も加え、光皮膚科学の最新の動向を一冊にまとめる機会を得ました。さらに光皮膚科学の歩み、光線防御の最新情報、住まいと光についても総説的な話題も加えることができました。公開講座での患者さんやご家族のお話も、ぜひ医療者に広く知っていただきたく、原稿を寄せていただきました。

何やかんやで盛り沢山の内容になってしまいました。この一冊で、ぜひ光皮膚科学の現在位置を知り、皆様方の日常診療を通じて、患者さんに還元していただければ、誠にありがたく存じます。お忙しいなか、学会に参加し、ご発表・ご討論いただき、また原稿までご執筆賜りました皆様方に厚く感謝の意を表します。

市民公開講座を終えて、演者 5 人で (左より川原先生、塩沢氏、伊藤氏、森脇先生、筆者)

